

「地域に求められる学校に」

八学大 小林新学長就任会見

学校法人光星学院（法官）学院大の学長に4月1日付
新一理事長は15日、八戸で就任する小林眞氏（74）



就任会見で笑顔を見せる小林眞氏
＝15日、八戸学院大

と、同大短期大学の学長
に再任される杉山幸子氏
（62）の就任会見を同大で開
いた。前八戸市長の小林氏
は「地域に求められ、学生
が来たいと思える学びやに
していく」と述べ、地域連
携と学校の魅力向上に意欲
を示した。任期は3年。

小林氏は東北政法大学部
卒。1975年に青森県庁
入庁後、79年に自治省（現
総務省）入省。2005年

から市長を4期16年務め
た。23年6月、同法人非常
勤理事に就任し、24年4月
から理事長補佐を務めてい
る。

会見で小林氏は、昨年7
月に同法人が公表した、看
護学科を学部昇格させる
などの改組再編構想案につ
いて、「学生の希望や地域
の意見も踏まえ、公共政策
企業経営、地域産業といっ
た分野に目標を定めながら
新たな大学の形を作ってい
く」と改革に前向きな姿勢
を示した。

また、25年度は大学内に
スポーツや健康に関する研
究所を新設し、現学長の水
野眞佐夫氏が研究活動に携
わる方針も明らかにした。

3期目となる杉山氏は
「少子化で学生確保が課題
だが、この地域に高等教育
機関は欠かせない。小林次
期学長と相談しながら、前
向きに柔軟に（対応を）検
討していきたい」と力を込
めた。（上條哲洋）

4月に八戸学院大学の学
長に就任する前八戸市長の
小林眞氏（74）は15日、同大
ラムも再編し、公共政策、
企業経営、地域産業といっ
た分野に目標を定める。
健康医療学部の2学科は

域共創」をキーワードにし
た名称に変える。カリキュ
ラムも再編し、公共政策、
企業経営、地域産業といっ
た分野に目標を定める。
健康医療学部の2学科は

出した。前進に向かう転機
と考えており、大学として
しっかりと受け止め、政
策的な意味も含めて国の力
を借りることも考えたい。

4月からは下北キャンパ
スがオープンする。大学が
幅広い地域同士を結びつけ
る役割を果たせれば。

（学長就任について）私
自身は役人生活が長い。学
問の領域は今いる先生方に
担ってもらい、地域の中で
大学が育つために力を発揮
して」と打診された。

小林新学長 会見要旨

連携を前進 大きなうねりに

【会見での抱負】
大変重い責任を負うこと
になった。学生を第一に考
え、素晴らしい取り組みを
続けてきた水野（眞佐夫）
学長からバトンを引き継
ぎ、新たな年度のスタート
をスムーズに切りたい。

それぞれ独立させ、人間健
康科学部と看護学部を新た
に形づくる方向だ。

【質疑応答】
「地域との連携をどう考
えるか。」
現在も行政や経済界と多
角的に連携しているが、よ
まざまな方と関係をつくっ

法官新一理事長とは八戸
市長時代から話し合い、
「地域とコミュニケーション
を取りながら育つ大学
が望ましい」との共通理解
があった。市長の立場でさ
まざまな方と関係をつくっ

はきはきと元気があり、
素晴らしい学生が多い。学
生時代は人生の中で可能性
を広げる時間。人格を成長
させる場と捉え、さまざま
なことに積極的に関わり、
自己表現してほしい。
（田村祐子）

の改組再編計画に基づき、
2年間かけて形をつくるこ
とが大きな役割だ。学部再
編で地域経営学部は、「地

昨年発表した大学、短大
に形づくる方向だ。

昨年末、国は中央教育審
議会大学分科会で発表した
答申案で、地方の高等教育
機関を支援することを打ち

角的に連携しているが、よ
まざまな方と関係をつくっ

（田村祐子）